

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	2 / 1956 / 18-20
タイトル	青森市の種類より見た蝶の季節的消長
著者名	青森高校生物部 昆虫グループ

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

研究発表

青森市の種類より
見た蝶の季節的消長
昆虫グループ

1. 緒言

本州の最北部青森市は、関東、九州等の比較的暑い地方より蝶の出現は遙に遅く、4月中旬よりようやくその姿を現わし始めます。又季節の進行に伴いその種類数も着じるしく増減しています。我々はここ2、3年の調査と採集日記のデータからその数値をまとめました。今後の調査に示唆を与えるもの

として報告します。

2. 調査法

- 1) 旬別に見られる蝶の種類数を統計する。(この場合の蝶は、成虫とする。以下同様)
- 2) 上を科別からも検討する。
- 3) 各科の初見蝶、終見蝶、初見日、終見日を調査する。
- 4) 越冬するもの、夏眠するものの種類数と、その季節的消長を調査する。

以上の諸実を中心として、1956年度の3年間の平均値を出しました。

3. 本論

1 図 種類より見た蝶の季節的消長

A. 調査対象とした蝶の種類数は、青森市で見られる81種。(珍種も可成りある)科別に見ると次の様です。

1) アゲハチョウ科	6種
2) シロチョウ科	7%
3) タテハチョウ科	22%
4) シジミチョウ科	28%
5) ジャノメチョウ科	7%
6) セセリチョウ科	11%

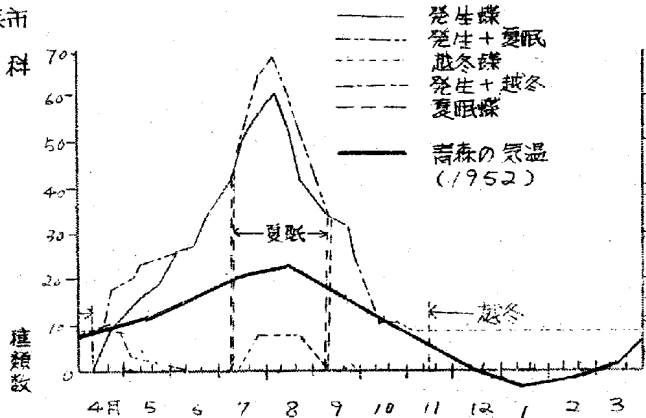


図1を見ると、4月上旬には9種の蝶が1

月から一定の数を保ち続けているが、これは冬を越した越冬蝶で詳しく述べます。その発生した初見蝶(初めて見られる蝶)は唯1種、モンシロチョウの4月中旬(1954.4.11, 1955.4.17)。続いてキアゲハ、アゲハ、スミタロチョウ、ルリシジミ、ミヤマセセリの普通種が出現しています。8月上旬の68種を頂点に、下り坂となり11月上旬のモンシロチョウを最終とし、その年の発生は中止します。8月上旬の68種(夏眠蝶も含む)は、調査対象とした81種の84%を示しています。これより蝶の増減はその季節の気温に大体平行しています。7月上旬から8月下旬に別な曲線があるが、これは夏眠したものでCで述べます。

B. 図2を見ると、6つの表があるが、これはAを科別より検討したものです。各科の種類数はAで記述しました。

a. アゲハチョウ科 初見蝶はキアゲハ、アゲハの4月下旬、6月の6種を頂点とし、Aと同じく1つ

の山を示しています。終見蝶は9月下旬のキアゲハ、アゲハ。6月に頂点を示すのは、この科のウスバシロチョウが春の蝶であり、他は普通年2回発生する態と思います。

6. シロチョウ科 初見蝶はモンシロチョウの4月中旬。8月の6種を頂点とし、終見蝶は10月下旬のモンシロチョウ。この科には越冬、夏眠するスジボンヤマキチョウがあります。

7. タテハチョウ科 初見蝶はサカハチチョウの5月中旬、7月中旬の22種。5月の9種のうちの頂点を示しています。これはこの科は8種の越冬蝶

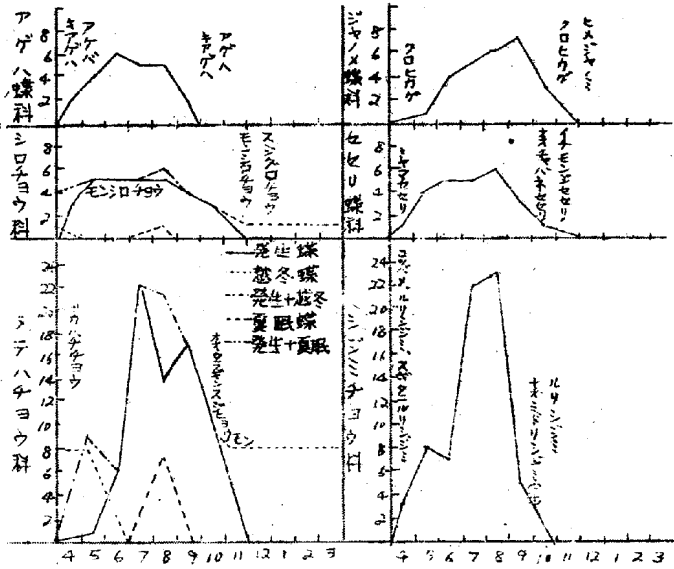
を有し、これ等が5月下旬で姿を消し、再び現われる態と思います。終見蝶はオオウラギンスジヒョウモンの10月上旬。

8. ジャノメチョウ科 初見蝶はクロヒカゲの5月中旬、8月の7種を頂点に、終見蝶はクロヒカゲ、ヒメジャノメの9月下旬。

9. ミジミチョウ科 初見蝶はコツバメ、ルリシジミ、スギタニルシジミの4月下旬、8月の23種、5月の8種を頂点としています。これはルリシジミ、ツバメシジミ、又春の蝶コツバメ等が一時発生する態です。終見蝶はオオシドリ子とルリシジミの9月の中旬。

10. セセリチョウ科 初見蝶はミヤマセセリの4月下旬で8月の6種を頂点とし、終見蝶はイリモンジセセリ、オオチヤバネセセリの10月中旬です。

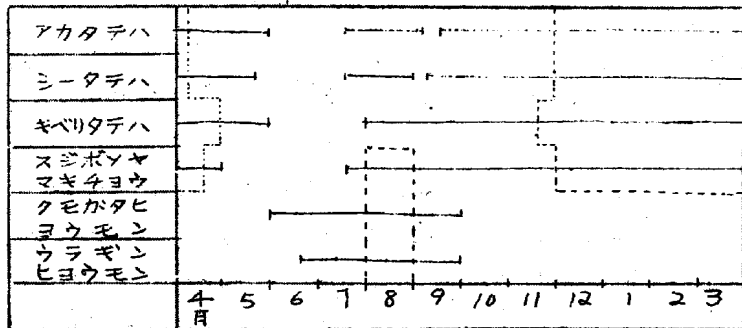
2図 科別より見た蝶の季節的消長



11. 越冬蝶、夏眠蝶について記述します。越冬蝶はシロチョウ科の1種、タテハチョウ科の8種。(図3を参照)

タテハチョウ科は年2回発生するアカタテハ、シータテハ等5種、1回のキベリタテハ等5種で、上の二者は夫々越冬しているの

3図 越冬蝶、夏眠蝶の消長



る。アカタテハ、シータテハ、キベリタテハを例にとります。又スジボンヤマキチョウは夏眠もするので兼ねます。越冬したアカタテハ、シータテハは夫々5月中旬、5月上旬に姿を消すが、7月の中旬より又発生し、夫々9月上旬、8月下旬に姿を消しています。そして約1旬の後再出現し、越冬に入ります。キベリタテハは6月に消し、8月上旬より発生し越冬します。シロチョウ科の唯一種のスジボンヤ

マキチョウは4月下旬に姿を著し、7月の下旬に発生します。夏眠は7月下旬から8月下旬迄でそのまま越冬に入ります。夏眠蝶はスジボソヤマキチョウの他はタテハチョウ科で、クモガタヒョウモン、ウラギンヒョウモンを例に取ります。これ等はいずれも年1回の発生。クモガタは5月上旬、ウラギンは6月下旬から姿を現わし7月下旬から8月下旬迄夏眠し、9月に再出現して、同月いっぱいで見られなくなります。

4. ま と め

以上から確実な結論を出す事は難しいので、一応まとめます。

1) 発生蝶は4月中旬から出現し、段々と数を増し、1つないし2つの山を形成するが、それは気温に平行している様である。2) 越冬するものは2科9種。3) 夏眠するものは2科8種。又両者とも2科に限られ、タテハチョウ科が優勢である。4) シロチョウ科のスジボソヤマキチョウ、タテハ科のヒオドシチョウは、越冬、夏眠の両性を示します。

以上の平均値を今後の調査により一層確実化したいと思ひます。

5. 今後の方針

本調査は青森市で見られるほとんどを調査対象としたが、これをもっと限定して、なるべく個体数の多いものを選び、それを定期的に記録して行きたいと思ひます。計画の種類数は6科50種。科別に見るとアゲハ科5種、シロチョウ科6種、ジャノメ科5種、タテハ科13種、ミジミ科15種、セセリチョウ科6種。以上です。